

植物分類上ではキャベツと同種とされるブロッコリーは、葉にはキャベツとよく似た障害があり、作物としては特に花蕾に出る障害が問題となります。チッソ肥料に敏感に反応するので、他の要素も含めて過不足に注意して管理することが重要です。

街中菜園の「生理障害対策講座」

～起こりがちな生理障害と対処方法～

兵庫県立農林水産技術総合センター
環境・病害虫部 主任研究員

まき ひろ ゆき 浩之
牧 浩之



第11回

ブロッコリーに見られる生理障害



ブロッコリーはキャベツ、ハボタン、芽キャベツ、ケールなどと近縁で、植物分類学的には同じ種の中の変種という関係にあります。そのため、葉にはキャベツとよく似た生理障害が見られ、加えて野菜として利用する花蕾部分の異常が問題になります。

写真解説

茎葉に見られる異常

チッソ肥料による反応する野菜で、生育期間を通じて、過不足により種々の障害の要因となる。特に

施用に当たっては専門家の指導のもと慎重に行うこと。

花蕾に見られる異常

写真5はリーフ

イと呼ばれる花蕾に葉が混ざる症状、花芽分化が不十分だったり、花芽分化後の高温のために、栄養生長が助長されて、花蕾の中で小葉片が発育して起こるといわれている。チッソ過多によっても助長されるため、花蕾肥大期の肥効を抑制する。写真6はキャッツアイと呼ばれる蕾の不ぞろい。

花蕾に十分な数の花芽ができないため、中央部に緑色の蕾の間から黄緑色の花蕾の基部がのぞき、そのため宝石のキャッツアイのように見える。写真7はブラウンビーズで、収穫期に個々の蕾(小花)がとどころで枯死する現象、特に収穫が遅れると発生が著しくなり、収穫期の高温や乾燥によるストレスも要因と考えられている。

また品種間差異もある。花茎空洞症(写真8)は花茎の中が空洞化する。水浸状や褐変が伴うこともある。チッソ過多やホウ素欠乏によって引き起こされると考えられ、生育が旺盛な株に発生が多い。発生が少ない品種を選び、適期収穫に努め、花蕾生育期の過剰なチッソ施肥を避ける。

低温期には花蕾に紫色の着色が見られることがある(写真9)。低温時の日照によりアントシアンが生産されるため、ややチッソ不足の時に助長される。